YOKOHAMA

2012年 1月 1日から
2012年 6月30日まで 第137期

中 間 報 告 書

iceGUARD 5 FIVE iG50

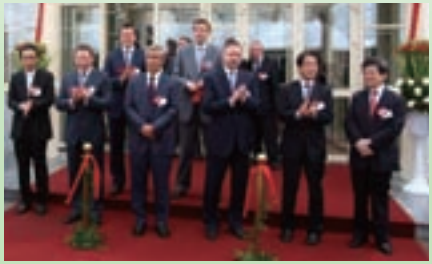
株主の皆様へ

2012年度上期はタイヤ、MB事業とも好調
通期では過去最高の売上高、利益を見込む

特集

ヨコハマスタッドレスタイヤの最高傑作
「アイスガード ファイブ」新発売

トピックス



- ロシア新タイヤ工場が完成
- 空気式防舷材をシステム販売
- 「GEOLANDAR SUV」の海外展開を本格化
- PRGR「TOKYO-HUB」がオープン

横浜ゴム株式会社

代表取締役会長兼CEO
南雲 忠信

代表取締役社長
野地 彦旬

2012年度上期は タイヤ、MB事業とも好調 通期では過去最高の 売上高、利益を見込む

タイヤ、MBともに販売が好調に推移

当中間期の市場環境は、国内では東日本大震災からの復興に伴い、自動車生産台数の大幅増がありました。一方海外では、債務危機により欧州では景気が停滞し、中国も経済成長に陰りがみられるようになりました。こうした中、当社はタイヤ、MB事業共にグローバルな販売強化策の展開、値上げの浸透、内部改善努力などを行った結果、連結決算は売上高が2,690億円、営業利益が199億円、経常利益が191億円、純利益が137億円となりました。

通期は売上高5,760億円、営業利益490億円を見込む

2012年度通期の見通しは、売上高5,760億円、営業利益490億円、経常利益440億円、当期純利益300億円と売上高、利益ともに過去最高を見込んでいます。配当については中間配当を一株当たり8円とします。また、期末配当は10円を予定しており、年間では一株当たり18円を計画しています。

本年度よりフェーズⅢがスタート

さて本年度より、中期経営計画「GD100（グランドデザイン100）」のフェーズⅢがスタートしました。「GD100」は創業100周年にあたる2017年度に売上高1兆円、営業利益1,000億円の達成を目指した計画で、2006年度から3年間を1フェーズとして取り組んでいます。フェーズⅢでは「強くしなやかな成長」をテーマとし、3年間累計で売上高1兆8,000億円、営業利益1,500億円などの目標を掲げました。フェーズⅢがスタートしてから半年、本年度上期の取り組みを中心にその成果をご紹介します。

ロシアの新タイヤ工場が本格稼働

タイヤ事業では、「大規模投資による供給能力の増強」を成長戦略の柱に据えています。5月にはロシア工場が本格稼働し、来年夏までに年産140万本体制を確立する計画です。当社はロシア市場に参入する外資系タイヤメーカーではトップグループに位置しており、さらに同市場での販売を強化する計画です。また3月にインドでの2014年度からの乗用車用タイヤ生産を決定しました。さらに8月には、中国のOR（建設車両用）ラジアルタイヤ専門メーカーとの間で、同社への技術供与と同社が生産するORラジアルタイヤのオフテイク（一定量引き取り）について基本合意しました。

成長市場向け商品、海外事業を強化

MB事業では、当社が得意とする「3つのコア技術（運ぶ・くっつける・やわらげる）」をさらに発展させた新商品の開発、販売を進めています。上期にはスマートフォンやタブレット端末などのディスプレイに使われるフィルム用ハードコート材など、成長市場である通信・電子機器分野向け商品を発売しました。MB事業は海外売上比率50%を目指しており、来年、中国でのホース工場建設を計画しているほか、上海の販売会社も活動を強化しています。また北米ではビッグ3からの受注増によってホース配管事業が好調です。ゴルフ事業では本年秋に新商品「iD nabla（アイディー・ナブラ）」を投入します。従来品と比べフェースの高初速エリアを1.5倍に広げたドライバーなど魅力ある商品をラインアップします。

国連「グローバル・コンパクト」に署名

基盤強化では、2006年度から実施している「ムダ取り活動」の削減効果が6年間累計で515億円となりました。本年度からはさらに「重要課題特別プロジェクト」を立ち上げ、活動を強化しています。CSRへの取り組みでは、5月、国連が提唱するCSRに関する世界最大のイニシアティブ「グローバル・コンパクト」に署名しました。また4月には東日本大震災による津波で被災した岩手県大槌町で、植樹会を開催しました。“震災がれきを植樹マウンドに活用して森を育成し将来の防潮堤とする”という構想に基づくもので、当社はこれに賛同し、その第一歩となるモデル植樹を実施しました。

横浜ゴムグループは、フェーズⅢで掲げるテーマ「強くしなやかな成長」を実現するため、各事業における課題に全力で取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年8月

代表取締役会長兼CEO　南雲忠信

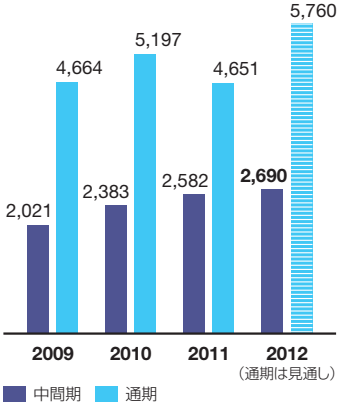
代表取締役社長　野地彦旬

●経営成績

当中間期の連結決算は、売上高が2,690億円、営業利益が199億円、経常利益が191億円、純利益が137億円となりました。円高による為替の影響があったものの、タイヤとMB両事業で販売が好調でした。また、原材料価格が下落傾向で推移したことに加え、値上げの浸透が利益を押し上げました。なお、当社は2011年度から決算期末日を12月31日に変更しました(従来は3月31日)。これに伴い、比較対象となる2011年度中間期(2011年4月1日から9月30日まで)とは月度が異なるため、対前年同期増減率は記載しておりません。

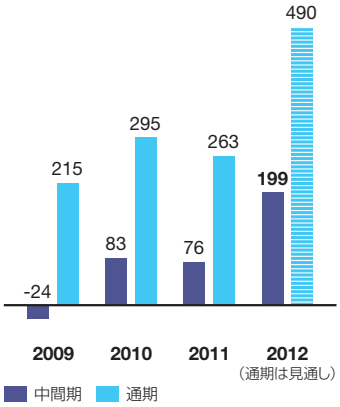
売上高

(年度／億円)



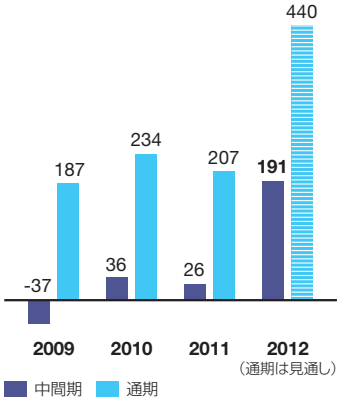
営業利益

(年度／億円)



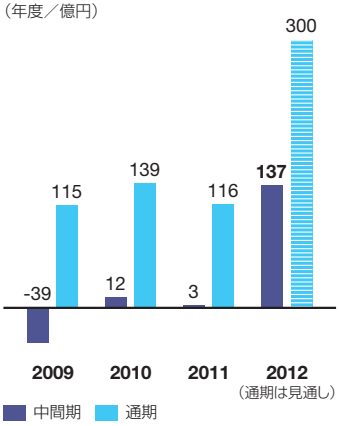
経常利益

(年度／億円)



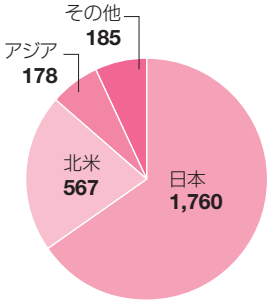
純利益

(年度／億円)



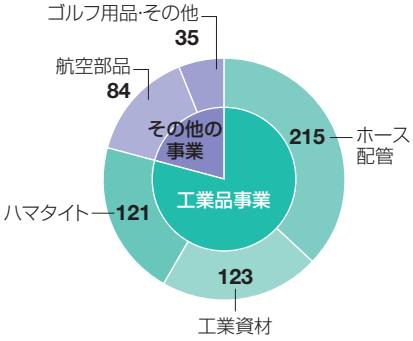
所在地別売上高

(億円)



MB事業売上高内訳

(億円)



(注) 2011年度は9ヶ月決算となります。

●事業別

タイヤ事業

売上高 2,111億円

営業利益 169億円

タイヤ事業の売上高は2,111億円、営業利益は169億円となりました。自動車メーカーが東日本大震災からの復旧やエコカー補助金効果により販売台数を大幅に増やしたため、国内新車用が好調でした。また、国内市販用も堅調に推移しました。海外では値上げの浸透が進みましたが、ロシアを除く欧州で需要が低迷したほか、経済成長に失速感のでた中国、また北米でも需要が落ち込み、販売は弱含みで推移しました。

MB　工業品事業

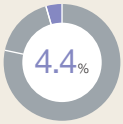
売上高 459億円

営業利益 23億円

工業品事業（ホース配管、シーリング材、コンベヤベルト、ゴム支承、マリンホース、防舷材など）の売上高は459億円、営業利益は23億円となりました。ホース配管では、自動車向けが国内外で堅調でした。工業資材では、活発な資源開発による旺盛な需要を受けてマリンホースの売り上げが好調でした。コンベヤベルトも堅調に推移しました。ハマタイトでは、自動車生産台数が大幅に増加したことを受け自動車用が好調でした。

工業資材：コンベヤベルト、ゴム支承、マリンホース、防舷材など
ハマタイト：接着剤、シーリング材、コーティング材など

MB　その他の事業



売上高 119億円

営業利益 7億円

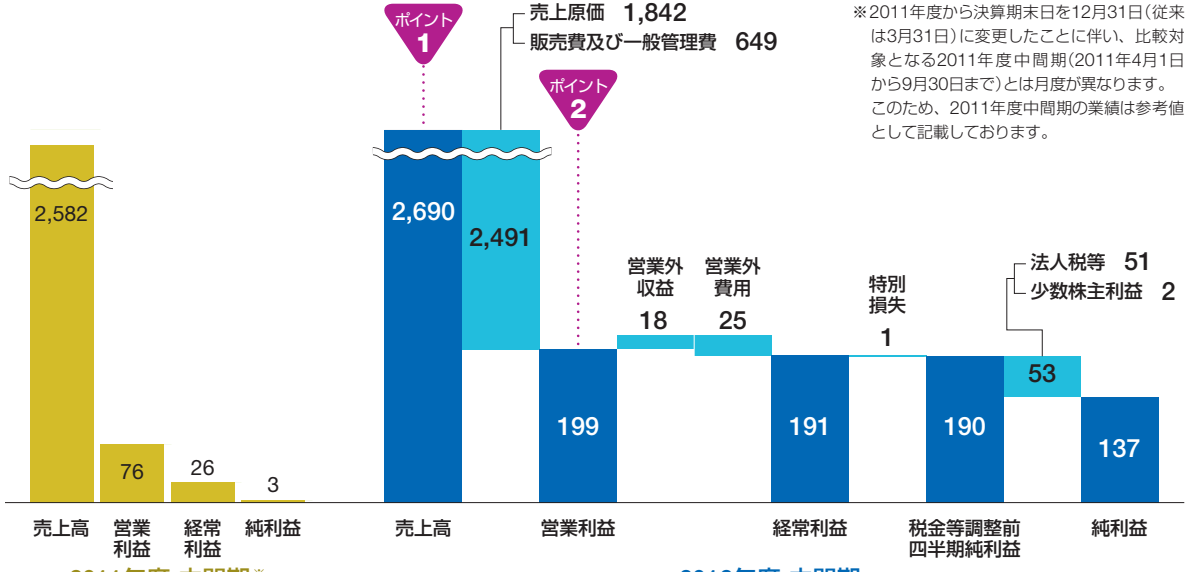
その他の事業（航空部品、ゴルフ用品など）の売上高は119億円、営業利益は7億円となりました。航空部品では、官需・民需ともに厳しい市場環境が続きましたが、補用品の売り上げは堅調でした。ゴルフ用品では、需要の減少や価格競争の激化などで厳しい市場状況が続く中、主力商品の販売が苦戦したこともあり低調に推移しました。

（注）MBはマルチプル・ビジネスの略で、「多角化し、拡大する事業」という意味。

● 連結損益計算書の概要

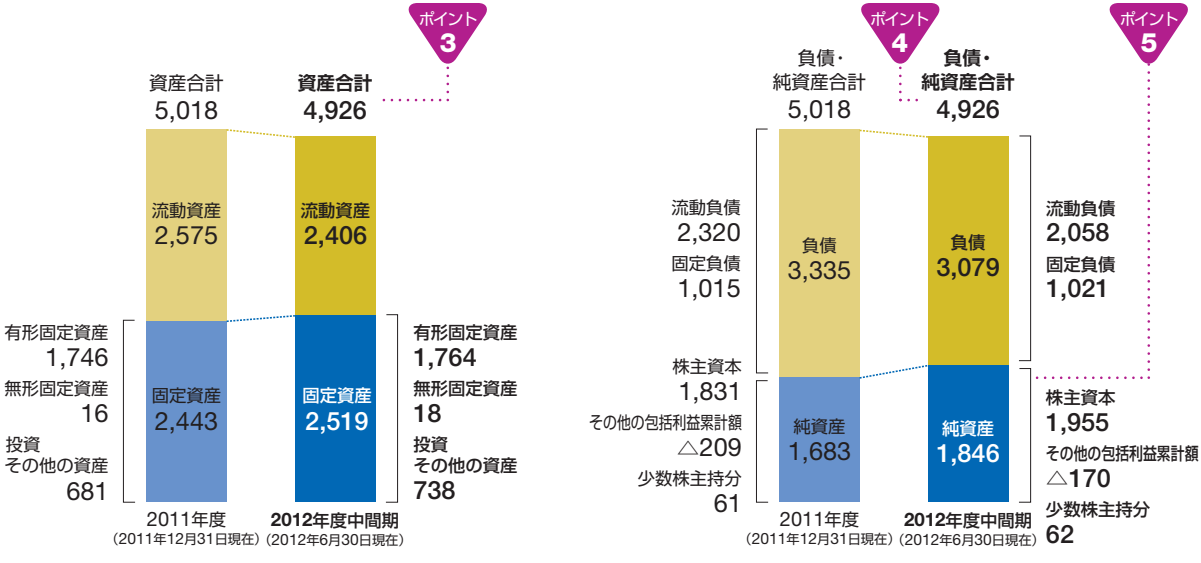
（単位：億円）

※2011年度から決算期末日を12月31日（従来は3月31日）に変更したことに伴い、比較対象となる2011年度中間期（2011年4月1日から9月30日まで）とは月度が異なります。このため、2011年度中間期の業績は参考値として記載しております。



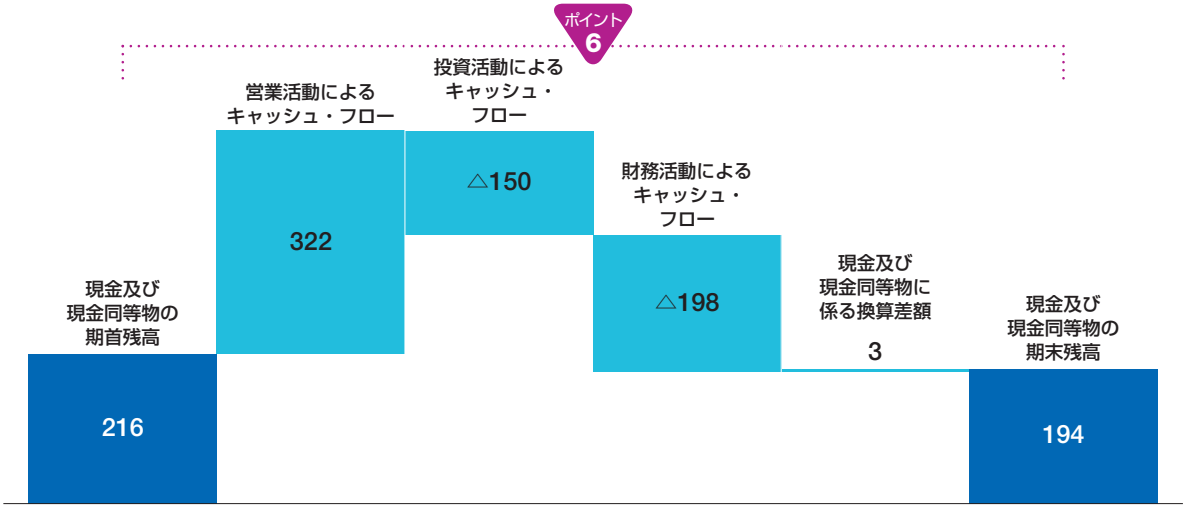
● 連結貸借対照表の概要

（単位：億円）



● 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

（単位：億円）



2012年度 中間期
（2012年1月1日～2012年6月30日）

ポイント 1 売上高

タイヤ事業は国内新車用が大幅に伸びたほか、市販用も堅調に推移しました。MB事業も工業品が売り上げを伸ばしました。

ポイント 2 営業利益

値上げ効果に加え原材料価格が下落傾向で推移したことにより、営業利益は199億円となりました。

ポイント 3 資産

総資産は4,926億円となり、前期末に比べ92億円減少しました。前期末の冬用タイヤの売上債権が減少したことが主因です。

ポイント 4 負債

負債合計は前期末に比べ256億円減少し、3,079億円となりました。仕入債務や借入金などが減少したためです。

ポイント 5 純資産

純資産合計は前期末に比べ164億円増加し、1,846億円となりました。純利益を137億円計上したことや、保有株式の時価評価額が増加したことによります。

ポイント 6 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益を190億円計上したことや売上債権の回収が進んだことなどにより、322億円の収入となりました。一方、投資活動によるキャッシュ・フローは設備投資を中心に150億円の支出となりました。その結果、フリーキャッシュ・フローは172億円のプラスとなりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金やコマーシャル・ペーパーの返済により198億円の支出となりました。

※フリーキャッシュ・フロー＝営業活動から得た資金－投資活動に支出した資金

ヨコハマスタッドレスタイヤの最高傑作「アイスガード ファイブ」新発売

iceGUARD 5 FIVE iG50

スタッドレスタイヤの販売キャンペーンに起用する
ロシアの国民的キャラクター、チェブラーシカ

©2010 Cheburashka Movie Partners/Cheburashka Project
チェブラーシカ公式HP：http://www.cheb-project.com/

優れた氷上性能や省燃費性能を向上

乗用車用スタッドレスタイヤ「iceGUARD 5（アイスガード ファイブ）」は、「環境と人、社会にやさしい」をテーマとする当社の「BluEarth（ブルーアース）」コンセプトに基づき、氷上性能と省燃費性能のさらなる向上を目指しました。新開発のコンパウンド「スーパー吸水ゴム」と非対称トレッドパターンを採用し、氷上性能は従来品「アイスガード トリプルプラス」に比べ8%向上。また、ミニバン専用プレミアム低燃費タイヤ「BluEarth RV-01」のサイドプロファイル技術の採用により、ころがり抵抗を5%低減しました。圧雪、シャーベット、ウェット、ドライの各路面での性能は従来品と同等レベルを確保しています。9月3日から順次発売開始予定です。

国内プロモーションを開始、海外でも順次発売

7月30日、「アイスガード ファイブ」の発表会をザ・リッツ・カールトン東京（東京都港区）で開催し、およそ240名の来場者を前に野地彦旬社長が新商品に込めた思いやその優れた性能をアピールしました。9月からは矢沢永吉さんと楽曲タイアップしたテレビCMやWeb限定の特別配信映像を公開します。また、今冬のロシア発売を皮切りに海外展開も開始し、来年以降、順次発売エリアを拡大する予定です。

発表会に出席した
野地社長

「優れた氷上性能」をアピールしたテレビCMの場面

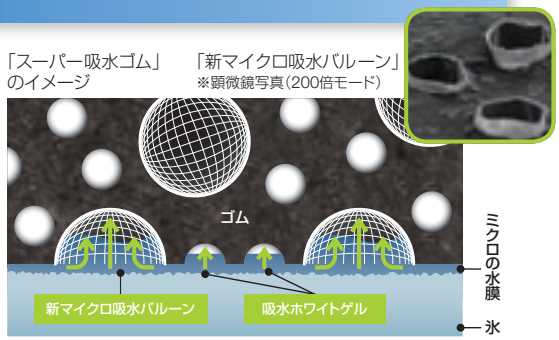
新技術紹介

1 | 吸水量が21%向上した「スーパー吸水ゴム」

吸水力を高めた新マイクロ吸水バルーンと新素材の吸水ホワイトゲルを採用。吸水ホワイトゲルはゴム内部で均一に分散し吸水効果を補完します。2つの素材の相乗効果で、吸水量が従来の「トリプル吸水ゴム」に比べ21%向上。「密着」「エッジ」の効果と併せて、優れた氷上性能のさらなる向上に大きく貢献しています。

「スーパー吸水ゴム」のイメージ

「新マイクロ吸水バルーン」※顕微鏡写真(200倍モード)



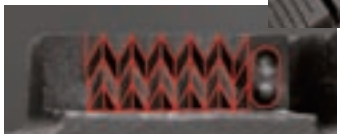
2 | 氷上・雪上性能を高めた「非対称トレッドパターン」

特に氷上で有効なIN側は、大きな接地面積の確保と細かいサイプ(切れ込み)密度の拡大による氷上摩擦力の向上で、氷上性能に貢献します。OUT側は氷上より速度が速くなる雪上での走行を考慮し、溝面積の拡大でエッジ力を高め優れた雪中せん断力を発揮。またブロック剛性を高め、シャーベット、ウェット、ドライでの操縦安定性と剛性感を獲得しています。

3 | 氷上での接地、排水などに効く「トリプルピラミッド ディンプルサイプ」

「トリプルピラミッド ディンプルサイプ」は吸水した水の排水性を高めながら、氷上でのエッジ効果にも貢献。また、上下に配置した大型のディンプルがサイプ端部の切り込みによる剛性低下を抑制するとともに、摩耗が進行しても長期間エッジ効果を持続します。

ブロック端に配置した深い切れ込み部の内部構造。右にあるくぼみがディンプル



センターブロック部に採用

開発者の声

PC製品企画部
製品企画2グループリーダー
中村 善州

「アイスガード ファイブ」は、冬路面を走る全てのお客様のニーズに応えることを目指した商品です。特にスリップの危険性が高く、多くのお客様が不安を感じる氷上での性能を徹底的に追求しました。企画、材料設計、構造設計、評価の開発チームが何百、何千ものトライ&エラーを繰り返し、またテストコースだけでなく、日本国内の様々な凍結路面での評価を行うことで、「お客様の安心感」に対して妥協のない性能を実現できたと思います。

ロシア新タイヤ工場が完成

当社のロシア新タイヤ工場が本年5月に完成し本格稼働を開始しました。5月30日に行われた開所式では、南雲忠信会長兼CEOが「将来性のあるロシア市場でヨコハマブランドの高品質な製品を供給していきたい」と挨拶しました。ロシアのタイヤ市場において、当社は2011年度の売上本数が前年度比25%増の300万本を達成するなど、輸入乗用車用タイヤでトップグループのシェアを誇ります。地産地消の体制が整うことでより有望な市場に成長すると見込んでおり、来年夏までに年産140万本のフル生産に入る予定です。

リペツク州に建設したロシア新タイヤ工場(上)と5月に開催した工場開所式(下)

「GEOLANDAR SUV」の海外展開を本格化

本年2月に日本で発売したSUV用タイヤ「GEOLANDAR SUV(ジオランダー・エスユーブイ)」のグローバル展開を本格化しています。すでに欧州、タイ、中国で発売しており、本年度中にその他のアジアや大洋州、中南米にも相次いで投入する予定です。低燃費タイヤ「BluEarth(ブルーアース)」の環境技術を採用し、優れた低燃費性能を実現するとともに、安全性や快適性を追求したものです。

低燃費性能を高めたSUV用タイヤ「GEOLANDAR SUV」

PRGR「TOKYO-HUB」がオープン

本年3月、PRGR(プロギア)直営施設「TOKYO-HUB(トーキョー・ハブ)」が東京都豊島区にオープンしました。独自の最新科学測定器によるスイング解析、レッスン、クラブフィッティングを行うゴルフ・スタジオです。PRGRは科学的スイング解析を通じて、最適なクラブ選び・販売を展開し他社との差別化を強化しており、新施設はその拠点となるものです。

人気の測定器「Science Fit」でスイングを解析

空気式防舷材をシステム販売

当社の空気式防舷材は世界で7割のシェアを占めており、さらに市場地位を高めるため、無線やセンサー技術などを活用したシステム販売を強化しています。洋上で空気式防舷材を用いタンカー同士が接舷する際に2船体の操船・係留を監視するシステムを昨年11月から試験運用しているほか、接岸時の空気式防舷材の状況を総合的に監視するシステムを来年度から販売する予定です。

「2船体操船および係留監視システム」は、船舶間に置かれた空気式防舷材の空気圧を遠隔監視することで、接触事故などを防止します

岩手県大槌町で「千年の杜」植樹会を開催

本年4月30日、東日本大震災による津波で大きな被害を受けた岩手県大槌町で、「千年の杜」植樹会を開催しました。これは「YOKOHAMA　千年の杜」を指導していただいている植物生態学者の宮脇昭氏が提唱する“がれきを利用した森づくり”のモデル植樹として実施されたものです。“がれきを利用した森づくり”は、将来の巨大津波に備え東北地方の太平洋沿岸300kmに震災がれきを活用して防潮林を育成するという構想です。当社はこのプロジェクトに賛同し、植樹会を開催しました。当日は大槌町住民の皆様約330名のほか、当社の南雲忠信会長兼CEO、野地彦旬社長を含む従業員ボランティア111名も参加しました。また、ご来賓として細野豪志環境大臣や細川護熙元首相などにもご出席いただきました。なお、今後5年間にわたり、町と協力し、植樹マウンドの延長を行う予定です。

上：大槌町内を流れる小鎚川沿いに植樹
下：植樹会開会式の様子

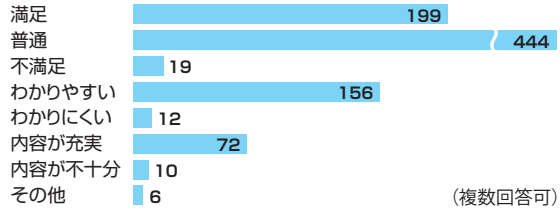
グローバル・コンパクトに署名

本年5月、国連が提唱するCSRに関する世界最大のイニシアティブ「グローバル・コンパクト」に署名し、署名企業で構成される「グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク（GC-JN）」に加入しました。GC-JNは日本企業のCSR活動の活発化を目指して活動する機構で、震災支援活動にも積極的に取り組んでいます。当社はすでに昨年秋と本年冬にGC-JNが主催した宮城県気仙沼市大島の復興支援ボランティア・ツアーに参加しており、今後も引き続き、こうした活動に参画する方針です。

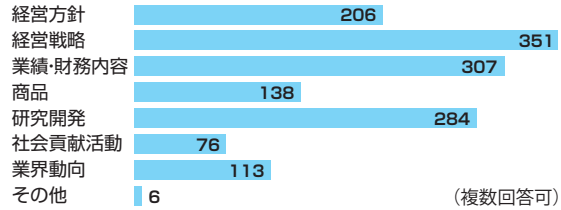
株主アンケート結果報告 ● アンケートへのご協力ありがとうございました。

第136期期末報告書でアンケートを実施し785枚（回収率5.2%）のご回答をいただきました。集計結果を一部ご報告します。

Q 今回の期末報告書をどのように評価されますか?



Q 今後、どのような情報の充実を望まれますか?



いただいたご意見をもとに、今回の中間報告書を作成させていただきました。

役員

取締役及び監査役

代表取締役会長兼CEO	南雲 忠信
代表取締役社長	野地 彦旬
取締役副社長	辛島 紀男
取締役副社長	小林 達
取締役 専務執行役員	後藤 祐次
取締役 常務執行役員	川上 欽也
取締役 常務執行役員	大石 貴夫
取締役 常務執行役員	森田 史夫
常任監査役	福井 隆
常勤監査役	藤原 英雄
社外監査役	古河 直純
社外監査役	佐藤 美樹
社外監査役	梶谷 剛

執行役員（取締役兼務者を除く）

専務執行役員	田中 孝一
常務執行役員	鈴木 伸一
常務執行役員	高岡 洋彦
常務執行役員	田中 靖
執行役員	小松 滋夫
執行役員	西田 敏行
執行役員	伏見 隆晴
執行役員	鈴木 忠
執行役員	桂川 秀人
執行役員	挾間 浩久
執行役員	久世 哲也
執行役員	菊地 也寸志
執行役員	中澤 和也
執行役員	岸 温雄

大株主（2012年6月30日現在）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本ゼオン株式会社	29,307	8.5
朝日生命保険相互会社	27,260	7.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	24,131	7.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	21,142	6.1
東京海上日動火災保険株式会社	12,062	3.5

株式分布状況（2012年6月30日現在）

所有者区分	株主数（名）	株式数（千株）	株式数比率（%）
個人・その他	14,174	38,404	11.2
金融機関	79	166,363	48.6
その他国内法人	267	70,990	20.7
外国人	258	52,678	15.4
証券会社	63	6,598	1.9
自己株式	1	7,565	2.2
合計	**14,842**	**342,598**	**100.0**

株主メモ

決算期	12月31日
定時株主総会	3月開催
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 及び電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031（フリーダイヤル）
基準日	12月31日、その他必要により取締役会で決議し、 あらかじめ公告します。
配当金受領株主確定日	12月31日及び中間配当を行うときは6月30日
公告方法	電子公告

株式事務手続きのお問い合わせ先

- お取引の証券会社の口座に記録された株式についての住所変更、名義変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受け取り方法の指定など

↓

お取引口座を開設されている証券会社

- 郵便物等の遅配、未受領の配当金に関する照会
- 特別口座に記録された株式についての一般口座への振替請求、住所変更、名義変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受け取り方法の指定など

↓

株主名簿管理人・特別口座管理機関
三井住友信託銀行株式会社

横浜ゴム株式会社　〒105-8685 東京都港区新橋5丁目36番11号　TEL（03）5400-4500　http://www.yrc.co.jp/　（作成元：総務部）

〈表紙タイヤ写真〉本年9月発売予定の乗用車用スタッドレスタイヤ「iceGUARD 5（アイスガード ファイブ）」。

環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。

VEGETABLE OIL INK

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915